

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年 11月 8日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104476		
法人名	医療法人 社団 恵宣会		
事業所名	グループホーム あき・なごみの家		
所在地	広島市安芸区船越南3-7-24 (電話) 082-821-2873		
自己評価作成日	令和3年10月19日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470104476-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470104476-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年11月4日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居者と共に食事作りを行い、その他にも入居者のレベルに応じた家事を行って頂きながら、職員と共にできるだけ家庭的な雰囲気作りを目指している。同一敷地内にクリニックがあり、医療面においては、医師及び看護師に迅速に相談でき、入居者の体調管理が的確に行えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所理念を基に、職員の心得としての『7つの行動基準』を掲げ、日々の介護を実践している。レクリエーションなど活動量を増やす取り組みを行うことにより、なるべく車いすを利用しない、重度化を防ぐ取り組みをしている。最近の取り組みとして、感染状況を踏まえた窓越し面会の工夫をしている。市内のドライブ、事業所敷地内での定期的なバーベキューなど外気に触れ、気分転換を図っている。ICTを活用し、レクリエーション、歌謡曲などを取り入れている。職員同士が話しやすい雰囲気があり、意見・要望を管理者は前向きに受け止め、運営に活かしていく体制が見られる。医療面に関して、同敷地内にクリニックが併設され、医療機関の訪問診療、緊急時対応など、医療連携が構築されている。今後、新型コロナウイルス感染症が終息したら、個別外出の再開を考えている。

自己評価	外部評価	項目(                    ユニットA                    )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の(    )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を掲げて、毎朝のミーティング時に理念・行動指針の読み上げを行うなど職員に理念共有の徹底を行っている。会議において、理念を判断基準として決定している。	事務所理念と共に、職員の心得としての『7つの行動基準』を毎朝の申し送り時に職員で唱和し意識を高めている。それらについて各種会議にて、定期的に振り返りを行い、職員のモチベーション維持につなげ日々の実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域との関りが持てるよう可能な限り地域行事等には参加したいが、新型コロナウイルスの感染拡大により、思うような活動が出来ていない。	地域性から行事が多い地域であるが、コロナ禍で自粛が続いている。地域との絆を大切に老人会のサロンや、認知症カフェ、秋祭り、町内清掃の参加を通して、近所の人達と自然な形で関わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルスの感染拡大により運営推進会議等も思うように開催できず、地域との関りも難しい状況ではあるが、予定した運営推進会議の資料を各事業所にFAXして意見や感想を求めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルスの感染拡大により運営推進会議の開催が困難な状況が続いており、予定していた会議の資料などを各事業所宛にFAXして助言や意見を求めている。	現状下では当会議を書面にて行い、利用者、他事業所・地域包括支援センター職員他の少人数ではあるが、状況説明や報告及び意見交換をしている。資料を送付し、評価・要望・助言などをフィードバックする体制を整い、そこでの意見をサービス向上に繋げている。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	同地区の他施設との意見交換、区の生活課や地域包括支援センターとの連携などして、市と共にサービス向上に取り組んでいる。	主に管理者がパイプ役となって、市担当者や生活保護担当者との相談・手続きなどで連携している。管理者が不在時の対応を踏まえ、他の職員が対応できるように体制を整えている。事故報告書を提出、必要時には電話連絡などで相談し、協力関係を築けるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b></p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止に関するマニュアルを作成し、その有事のみの行使に至るよう対策を講じている。帰宅願望が強いなどして施設内を歩き回られる入居者がいることなどもあるが、玄関には開閉がわかるように警告音センサーを設置して対応している。予定する運営推進会議においても定期的に身体拘束廃止への対策を議題に挙げ報告をし、感想・助言を受けている。</p>	<p>ヒヤリハット・事故報告委員会を中心に3カ月毎の会議をしている。スピーチロックを含めた身体拘束をしないケアを実践している。道路に面しており、玄関は開閉がわかるようにセンサーチャイムを設置して利用者の安全を守る支援に取り組んでいる。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修や施設内での勉強会などにおいて虐待防止の取り組んでいる。日々の申し送りなどでもスタッフ間で確認を行い、気になることについては報告し、意見や感想を出し合っている。</p>	/	
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>自己評価にて施設での取り組みを振り返り、外部評価にて第三者からの視点でホームをチェックしていただき、より良いサービスの提供へ活かせるよう取り組んでいる。身寄りのない入居者の金銭管理に社会福祉協議会によるかけはしサービスを利用し、外部からの視野が出来るだけ入るようにしている。</p>	/	
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b></p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居から退去までの内容と条件を詳しく説明して同意を頂いている。契約内容の変更があれば、予め文章にて通知を行い、説明・同意の手順を再び行っている。</p>	/	
10	6	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b></p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>常日頃からご利用者と信頼関係を築けるよう努力し、訴えやすい関係を目指している。ケアプランの立案、説明時には話し合いの場を持つようにするほか、定期的に請求書送付とともに入居者の様子を文面にてご家族に報告している。伝える内容などについて統一し、担当制をとってご家族とより近い関係を構築できるよう計画中である。</p>	<p>電話や手紙で日々の様子を知らせ、行事の写真、職員からの一言コメントを添えて、あき・なごみ便りに載せて利用者が和やかに過ごす姿を伝えコミュニケーションを図っている。急変時以外のやり取りは、メールを活用することでスムーズな関係作りが出来ている。個々の要望は業務日誌に記載し、早めの取り組みをしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月月末の意見や指導を確認する職員会議を開いている。『提案・疑問シート』を使用し、職員一人ひとりが気付いた事を会議に出しやすい環境が生み出せるようにしている。朝の申し送り時・午後のミーティング時の際、職員間で話し合う機会を持ち、意見等を反映させている。	いつでも記載できるように『提案・疑問シート』を活用し、意見が出しやすい体制を整えている。年2回と個人面談を実施している。働きやすい職場づくりの方針により、例えば、資格取得の斡旋、職員の個々の勤務条件に対応した時間調整など、働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	一人ひとりの職員の状況を管理者が把握し、向上心を持って働けるよう努めている。子育てやその他家庭の事情などで急な勤務変更が生じる場合にも職員間で互いに対処できる体制を築いている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者・職員を段階に応じて育成する為の研修を受ける機会を設けている。また、職員間で定期的な勉強会も実施している。機会があれば外部から講師を招いた研修も実施している。就業時は業務マニュアルに沿い、出来るようになったか本人と担当者が話し合いながら業務を広げていくようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	新型コロナウイルスの感染拡大により思うようにはできていないが、可能な限り同業の施設と運営推進会議などに相互に構成員として参加し、相談できる関係を構築している。問題が発生した時には相談や意見交換をし、相互に協力できる関係を築いている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談を受けた当初は当施設がご利用者に適しているかといった視点からも考えていただけるように配慮し、入居に至るまでに入居者ご本人との面会を実施し、その他にもご家族や担当の施設関係者などからの情報の提供をしっかりと受け止め、職員間で今後の対応について話し合うことで、入居後の関わりを深く持ち信頼関係をより早く築けるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。	各職員がご家族の意向などにしっかりと耳を傾け、すべて対応できているわけではないが、不安ができる限り取り除けるように努めている。窓口を設け、細かな相談まで対応できる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用・入居希望の相談を受けた時にはまず、ご本人、ご家族が現状で困っていることや不安に感じている内容を知り、介護保険の概要や他サービスも含めた説明をするなどしながら、個々に応じた対応をしていけるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	管理者・職員は、ご利用者の喜怒哀楽を共にし、家事やイベント、外出など様々な事に共感しながら支えあう関係を築いていけるよう努力している。日常の家事など入居者個々に出来る範囲で行って頂き、その都度感謝の声掛けをしあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	管理者・職員は、できる限りご家族の意向を尊重し、一緒に入居者ご本人を支えていく関係を築いていけるよう努力をしている。変化があった時は必ず家族に連絡し、必要とあらば、ご家族による支援がなされるよう相談をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者ご本人の馴染みの人や、場所の関係が途切れないような支援に努めている。ご家族への手紙や電話の要望があれば対応するなどして、ご家族との関りが保てるように支援している。	コロナ禍前は、外出、外泊は自由にされ、知人・友人の来訪もあったが、現在は外出、外泊、面会も制限する中でも、窓越しの面会や電話の取次ぎ、家族の協力で病院受診などお願いすることで本人と家族との触れ合い機会を作るなど馴染みの関係継続のための工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係は把握しているが、入居者同士の交流が入居者間で困難な場合は、職員が介入して円滑な関係が築けるような支援に努めている。入居者数名での個別プログラムの機会を使い、入居者相互の関わりが持てるよう支援を考えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了しても、必要に応じ、本人・家族あるいは他施設関係者からの相談や連絡を受け、郵送物の返送など適切な支援が行われるように説明やフォローを行っている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	集団生活の中で制限される部分もあり希望に添えないこともあるが、入居者一人ひとりの要望・意向の把握に努め、可能な限りでの支援が行えるよう努めている。自発的な訴えの難しい方は入居者の意向・要望を汲み取るために情報収集に努め、職員間で共有する体制を向上させることが課題として上がっている。	本人の意思確認が難しい方は、日々の関りや、家族の意見を参考にしている。日常生活の中でのさり気ない会話や仕草・表情などから思いを受け止め、記録に記し職員間で共有している。利用者個々の希望や意向は反映され、可能なことは実現できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者一人ひとりの生活歴、環境、これまでのサービス利用の経過等の把握を入居時にご家族や関係者からしっかりと聞き取り、また、入居後のご本人との会話などの中からもこれまでの生活歴を探るなどして、職員間で共有できるよう努めている。職員によって日々の関わりの中で得られる情報に違いがあることを前提に、他の職員にも共有できるようにしていく事が課題として上がっている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、嗜好、有する能力等の現状を総合的に把握できるようケアプラン作成時のアセスメントを行い、生活の中で役割が持てるように努めている。ケアプランに日々の役割をあげていく中で、職員の意識も向上し、入居者のIADLの把握にもつながっている。		

自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>連絡のとりづらいうご家族もあるが、入居者ご本人がより良く暮らすため、入居者ご本人、ご家族や必要な関係者と職員それぞれが話し合うことで意見やアイデアを出し合い、それらを活かした介護計画を作成している。</p>	<p>毎月第二週の7日間はケアプラン週間としている。本人の生活習慣が維持できるように、生活の中で役割があることを視点に計画作成担当者を中心にケアプランを立案している。必要時に各関係者と共にカンファレンスを行い、3か月毎のモニタリングを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日常生活の様子や、ケアの実践、結果、気づき等を個人記録や業務日誌に記入し、情報を職員、家族、必要な関係者と共有しながら介護計画の見直しなどにも活かしている。</p>	/	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>入居者に合わせた個別のプログラムを計画することで、既成概念に捉われない個々の要望に応じた柔軟なサービスを提供していけるように努力している。入居者個々の意志を尊重し可能な限り対応している。意思表示の困難なご利用者もあるが、現状から難しい場合、外出援助などにより気分転換を図っている。</p>	/	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内会や消防機関などと協力した関係を築けるよう努力はしているが、新型コロナウイルス感染拡大により、地域との関りに制限を設けざるを得ない状況になっている。しかし、機会があれば地域で活用可能な機関などにも要請をし、地域資源をより活用した支援も検討している。</p>	/	
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご本人及びご家族等の希望により病院を受診され、適切な医療を受けられるようかかりつけ医との関係を築きながら支援している。職員の気付き、特変があれば関係医療機関の医師、看護師の指示を仰ぎ、ご家族へ説明の上受診を決定している。</p>	<p>同敷地内にクリニックがあり、医師及び看護師に迅速な対応ができる体制を整えている。協力医の訪問診療を毎月受けることができる。看護師との医療連携をはじめ定期的な訪問歯科による口腔ケアなど適切に医療を受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医療機関のあきクリニックの医師、看護師に入居者個々の情報提供を随時行っており、適切な対応を仰いでいる。必要時には他科受診の指示や薬の変更などを受けるなどして、入居者一人ひとりの健康管理や医療活用の支援が適切かつ迅速に行えるよう協力している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には入居者ご本人や家族が安心して過ごせるよう病院からの情報をしっかりと把握し、早期の退院につながるよう協力をしている。病院とGH職員とのやり取りで終始しないよう、GHは仲介役としてご家族につなげていく事を重視するよう対策を立てている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時にご家族にしっかりと理解して頂けるよう説明を行って同意書を交わし、早い段階から方針を共有している。要介護3になった時点、常時車椅子で移動するようになった時点で特養への申し込みを促している。	利用開始時に重度化した場合の対応に関わる指針を説明している。目安として、要介護3以上になった時点、重度化やターミナルケアに向かう事例が出た場合にはその都度、主治医や家族との話し合いを重ねて特別養護老人ホームへのスムーズな移行が出来るように適切な支援を行っている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、事故発生時の関係医療機関との連携を含めた対応マニュアルを作成し、周知している。職員に対して定期的な勉強会・訓練を行い確認をするよう計画している。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を行っている。夜間の火災発生に対する訓練も実施している。訓練時は消防局にも予め訓練実施の報告をして協力を得ている。	ハザードマップ上では、水害が予測されるため、1階から2階への垂直避難または高台のマンションへ避難する行動計画をたてている。備蓄は5～7日間程度の食糧・飲料水など2階に整備している。この度、ライト付きラジオを購入し、減災対策に努めている。	



自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人ひとりのペースに合わせた対応に努め、個人情報に関しては全職員で入居者の尊厳を守り、プライバシーに配慮した言葉かけ・対応をしていくよう、職員相互で指摘しあい、その都度問題がおきたときに会議を行っている。	年間研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。「～して頂けますでしょうか」と問いかけるようにしている。利用者に対する言葉かけも不適切な対応にならないように、気になる言葉遣いがあれば、その都度話し合いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者の自主的な部分を尊重し、必要な事柄には常にご本人による選択を行って頂き、入居者一人ひとりの人格を尊重できるよう環境づくりを目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の生活のリズムは概ね決まってはいるが、可能なかぎりその時々で入居者一人ひとりのペースを大切に、その人らしい暮らしができるような支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者ご本人やご家族から聞いた個々のこれまでの生活スタイルにできるだけ準じた整容が行えるように努めている。毎月訪問理美容ではご本人の希望に応じたスタイルにしてもらうなどして、その人らしい支援ができるように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニュー作りは、職員で分担し、パターンに陥らないようにたくさんの献立を立てている。誕生日の方に対しては、当日夕食時には本人の好きなメニューを提供している。入居者には調理、配膳、片付け時にそれぞれできる事を一緒に行っている。	栄養バランスの取れた3食手作りの食事提供で旬の野菜や彩りにも配慮し、食欲をそそる工夫をしている。利用者の能力に応じて下準備、片付けなど利用者と職員が共同で行っている。季節毎の行事食、誕生日には本人の好きなメニューで祝う楽しみもある。	

自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b>  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	必要時にご家族や医療機関からの情報を得て、入居者一人ひとりの状態に合わせた食材、調理方法、カロリー、栄養バランスを考慮したメニューを立案するよう努めている。食事が少ない時などは医師に相談するなどして対応し、必要時にご家族から入居者ご本人の好物を差し入れて頂くなどの対応もしている。また、水分摂取量の少ない方にはゼリーなどで工夫し、摂取を促している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b>  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔内が清潔に保てるように支援している。週に1度訪問歯科往診にて入居者一人ひとりが定期的にメンテナンスを行ってもらえるようにしている。		
43	16	<b>○排泄の自立支援</b>  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を活用し、排泄傾向を分析することでトイレ誘導を行い、個々の排泄の自立に向けた支援を行っている。また、関係医療機関の看護師にも入居者個々の排泄状況を常に報告し、必要な対応が適切かつ迅速に行えるようにしている。オムツはずしについてや尿パッドの使用方法について職員会議で話し合っている。	排泄パターンやタイミングを見計らいトイレ誘導を行い、トイレに座る生活習慣を基本としたケアに取り組んでいる。なるべく紙おむつを使用しないように、リハビリパンツや適切なパッド対応に努めている。個々に合わせた排泄の自立支援を行っている。	
44		<b>○便秘の予防と対応</b>  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便表を作成し、入居者個々の排便状況を把握し関係医療機関と連携して、できるだけスムーズな排便コントロールができるように情報交換している。また、飲食物の工夫や身体を動かして頂くことで、よりスムーズな排便が行えるように取り組んでいる。		
45	17	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b>  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に曜日や時間帯を決めているが、入居者のその時々状態に合わせて柔軟に対応している。	週2回の午後入浴、夏場は週3回のシャワー浴をしている。入浴時は、身体機能の状況、皮膚トラブルが無い確認している。個別のレクリエーションで足浴の実施、ハンドマッサージをしている。利用者の体調や入浴習慣に合わせて時間など、柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	入居者個々にあった睡眠環境 を作り、安心して気持ちよく休 息し眠れるように支援している。 時期にあわせ、その方にあつた 冷暖房の調整をその都度行つて いる。また、不眠・昼夜逆転と ならないよう、睡眠導入剤など の使用も医師と相談している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	入居者一人一人の服薬情報をフ ロア別にファイリングしており、 内服薬の情報がすぐわかるよう に整理している。入居者に変わ った様子がみられた時には都度 関係医療機関に連絡し、服薬 変更の指示があった場合には、 日誌や申し送り等で全職員が把 握できるようにし、またファイリ ングの薬情報の都度入れ替えて いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	日常の家事を一緒に行うほか、 一人ひとりの生活歴やご本人の 力を活かした役割、楽しみごと、 気晴らしの支援をしている。ご 本人の意思・意向をどう取り 入れていくか検討し、実施して いる。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	ご本人の希望があれば、可能な 限り散歩や買い物などに出かけ たいが、新型コロナウイルス感 染予防の観点から、入居者も 職員も満足のできる外出支援 は行えていないのが現状であ る。	以前は個別外出をしていたが、 現在はコロナ禍で個別外出は自 粛している。代替え方法として、 年間外出計画に基づいて、市内 のドライブ、敷地内でバーベキ ューを行い、外気に触れる機会 を設けている。家族の協力を頂 ける方がいれば、受診対応をお 願いしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	入居者一人ひとりの希望や力に 応じてお金を所持したり、使え るように支援している。ご本人 ・ご家族による管理が難しい 方には社協による金銭管理支 援を受けて頂いている。入居の 際、金銭管理同意書にて説明を 行い、同意を得て金銭を取り扱 っている。		

自己評価	外部評価	項目( ユニットA )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族の状況、時間を考慮しながら、ご家族や親戚に対しての電話、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎朝共用スペースの掃除を行い入居者が快適に過ごせる空間作りを目指している。また、空調には気を配り居心地のよい室温で過ごせるように努めている。屋外では花壇やプランターに野菜や花を植え家庭菜園を楽しんで頂いている。	季節の移り変わりや時間の感覚を把握できるように共用スペース作りを心掛けている。この度、外部講師の方から助言で、正しい姿勢保持を図るために、リビングのテーブル、椅子の検討をしている。屋外では花を植え、家庭菜園で取れた食材は食事に活かしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファを設置するなどして入居者同士が一緒に過ごせる空間を作っている。居室は入居者個々の過ごしやすい環境にしており、いつでも自室で独りくつろげるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者一人ひとりの居室入口に本人の写真を取り入れた創作物を貼るなどして、自室を間違わないように工夫している。また使い慣れた家具や道具、家族の写真、仏壇などを置き、入居者個々の生活スタイルに合った居室作りを行っている。	居室をより解り易くするために、入り口付近に、表札を大きくするなど工夫している。シンプルな設えの中でも家族写真を飾り以前からの生活に近づけた雰囲気や落ち着いた感じに配慮している。本人が片付けやすいように各居室のタンスなどに何が入っているのか分かるように表示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	安全で自立できる生活を送れるよう各所に手すりや個々の居室の表札やトイレなどの標識を設置している。また、各居室のタンスなどにもどこに何が入っているのか分かるようにテープなどで表示を貼っている。		

V アウトカム項目( ユニットA ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(                    ユニットB                    )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の(    )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を掲げて、毎朝のミーティング時に理念・行動指針の読み上げを行うなど職員に理念共有の徹底を行っている。会議において、理念を判断基準として決定している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のとの関りが持てるよう可能な限り地域行事等には参加したいが、新型コロナウイルスの感染拡大により、思いうような活動が出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルスの感染拡大により運営推進会議等も思うように開催できず、地域との関りも難しい状況ではあるが、予定した運営推進会議の資料を各事業所にFAXして意見や感想を求めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルスの感染拡大により運営推進会議の開催が困難な状況が続いており、予定していた会議の資料などを各事業所宛にFAXして助言や意見を求めている。		
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	同地区の他施設との意見交換、区の生活課や地域包括支援センターとの連携などして、市と共にサービス向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目( ユニットB )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、その有事のみの行使に至るよう対策を講じている。帰宅願望が強いなどして施設内を歩き回られる入居者がいることなどもあるが、玄関には開閉がわかるように警告音センサーを設置して対応している。予定する運営推進会議においても定期的に身体拘束への対策を議題に挙げ報告をし、感想・助言を受けている。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修や施設内での勉強会などにおいて虐待防止の取り組んでいる。日々の申し送りなどでもスタッフ間で確認を行い、気になることについては報告し、意見や感想を出し合っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	自己評価にて施設での取り組みを振り返り、外部評価にて第三者からの視点でホームをチェックしていただき、より良いサービスの提供へ活かせるよう取り組んでいる。身寄りのない入居者の金銭管理に社会福祉協議会によるかけはしサービスを利用し、外部からの視野が出来るだけ入るようにしている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居から退去までの内容と条件を詳しく説明して同意を頂いている。契約内容の変更があれば、予め文章にて通知を行い、説明・同意の手順を再び行っている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	常日頃から利用者と信頼関係を築けるよう努力し、訴えやすい関係を目指している。ケアプランの立案、説明時には話し合いの場を持てるようにするほか、定期的に請求書送付とともに入居者の様子を文面にて家族に報告している。伝える内容などについて統一し、担当制をとってご家族とより近い関係を構築できるよう計画之中である。		



自己評価	外部評価	項目( ユニットB )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月月末の意見や指導を確認する職員会議を開いている。『提案・疑問シート』を使用し、職員一人一人が気付いた事を会議に出しやすい環境が生み出せるようにしている。朝の申し送り時・午後のミーティング時の際、職員間で話し合う機会を持ち、意見等を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	一人一人の職員の状況を管理者が把握し、向上心を持って働けるよう努めている。子育てやその他家庭の事情などで急な勤務変更が生じる場合にも職員間で互いに対処できる体制を築いている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者・職員を段階に応じて育成する為の研修を受ける機会を設けている。また、職員間で定期的な勉強会も実施している。機会があれば外部から講師を招いた研修も実施している。就業時は業務マニュアルに沿い、出来るようになったか本人と担当者が話し合いながら業務を広げていくようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	新型コロナウイルスの感染拡大により思うようにはできていないが、可能な限り同業の施設と運営推進会議などに相互に構成員として参加し、相談できる関係を構築している。問題が発生した時には相談や意見交換をし、相互に協力できる関係を築いている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談を受けた当初は当施設がご利用者に適しているかといった視点からも考えていただけるように配慮し、入居に至るまでに入居者本人との面会を実施し、その他にも家族や担当の施設関係者などからの情報の提供をしっかりと受け、職員間で今後の対応について話し合うことで、入居後の関わりを深く持ち信頼関係をより早く築けるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目( ユニットB )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	各職員が家族の意向などにしっかりと耳を傾け、すべて対応できているわけではないが、不安ができる限り取り除けるように努めている。窓口を設け、細かな相談まで対応できる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用・入居希望の相談を受けた時にはまず、本人、家族が現状で困っていることや不安に感じている内容を知り、介護保険の概要や他サービスも含めた説明をするなどしながら、個々に応じた対応をしていけるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	管理者・職員は、利用者の喜怒哀楽を共にし、家事やイベント、外出など様々な事に共感しながら支えあう関係を築いていけるよう努力している。日常の家事など入居者個々に出来る範囲で行って頂き、その都度感謝の声掛けをしあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	管理者・職員は、できる限り家族の意向を尊重し、一緒に入居者本人を支えていく関係を築いていけるよう努力をしている。変化があった時は必ず家族に連絡し、必要とあらば、家族による支援がなされるよう相談をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者本人の馴染みの人や、場所の関係が途切れないような支援に努めている。家族への手紙や電話の要望があれば対応するなどして、家族との関りが保てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目( ユニットB )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係は把握しているが、入居者同士の交流が入居者間で困難な場合は、職員が介入して円滑な関係が築けるような支援に努めている。入居者数名での個別プログラムの機会を使い、入居者相互の関わりが持てるよう支援を考えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了しても、必要に応じ、本人・家族あるいは他施設関係者からの相談や連絡を受け、郵送物の返送など適切な支援が行われるように説明やフォローを行っている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	集団生活の中で制限される部分もあり希望に添えないこともあるが、入居者一人一人の要望・意向の把握に努め、可能な限りでの支援が行えるよう努めている。自発的な訴えの無い入居者の意向・要望を汲み取るために情報収集に努め、職員間で共有する体制を向上させることが課題として上がっている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者一人一人の生活歴、環境、これまでのサービス利用の経過等の把握を入居時に家族や関係者からしっかりと聞き取り、また、入居後の本人との会話などの中からもこれまでの生活歴を探るなどして、職員間で共有できるよう努めている。職員によって日々の関わりの中で得られる情報に違いがあることを前提に、他の職員にも共有できるようにしていく事が課題として上がっている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者一人一人の一日の過ごし方、心身状態、嗜好、有する能力等の現状を総合的に把握できるようケアプラン作成時のアセスメントを行い、生活の中で役割が持てるように努めている。ケアプランに日々の役割をあげていく中で、職員の意識も向上し、入居者のIADLの把握にもつながっている。		

自己評価	外部評価	項目( ユニットB )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	連絡のとりづらい家族もあるが、入居者本人がより良く暮らすため、入居者本人、ご家族や必要な関係者と職員それぞれが話し合うことで意見やアイデアを出し合い、それらを活かした介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常生活の様子や、ケアの実践、結果、気づき等を個人記録や業務日誌に記入し、情報を職員、家族、必要な関係者と共有しながら介護計画の見直しなどにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者に合わせた個別のプログラムを計画することで、既成概念に捉われない個々の要望に応じた柔軟なサービスを提供していけるように努力している。入居者個々の意志を尊重し可能な限り対応している。意思表示の困難な利用者もあるが、現状から難しい場合もあるが、外出援助などにより気分転換を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会や消防機関などと協力した関係を築けるよう努力はしているが、新型コロナウイルス感染拡大により、地域との関りに制限を設けざるを得ない状況になっている。しかし、機会があれば地域で活用可能な機関などにも要請をし、地域資源をより活用した支援も検討している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人及び家族等の希望により病院を受診され、適切な医療を受けられるようかかりつけ医との関係を築きながら支援している。職員の気付き、特変があれば関係医療機関の医師、看護師の指示を仰ぎ、ご家族へ説明の上受診を決定している。		

自己評価	外部評価	項目( ユニットB )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医療機関のあきクリニックの医師、看護師に入居者個々の情報提供を随時行っており、適切な対応を仰いでいる。必要時には他科受診の指示や薬の変更などを受けるなどして、入居者一人一人の健康管理や医療活用の支援が適切かつ迅速に行えるよう協力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には入居者本人や家族が安心して過ごせるよう病院からの情報をしっかりと把握し、早期の退院につながるよう協力をしている。病院とGH職員とのやり取りで終始しないよう、GHは仲介役として家族につなげていく事を重視するように対策を立てている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に家族にしっかりと理解して頂けるよう説明を行って同意書を交わし、早い段階から方針を共有している。要介護3になった時点、常時車椅子で移動するようになった時点で特養への申し込みを促している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、事故発生時の関係医療機関との連携を含めた対応マニュアルを作成し、周知している。職員に対して定期的な勉強会・訓練を行い確認をするよう計画している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を行っている。夜間の火災発生に対する訓練も実施している。訓練時は消防局にも予め訓練実施の報告をして協力を得ている。		

自己評価	外部評価	項目( ユニットB )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人一人のペースに合わせた対応に努め、個人情報に関しては全職員で入居者の尊厳を守り、プライバシーに配慮した言葉かけ・対応をしていくよう、職員相互で指摘しあい、その都度問題がおきたときに会議を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者の自主的な部分を尊重し、必要な事柄には常に本人による選択を行って頂き、入居者一人一人の人格を尊重できるよう環境づくりを目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の生活のリズムは概ね決まってはいるが、可能なかぎりその時々で入居者一人一人のペースを大切に、その人らしい暮らしができるような支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者本人や家族から聞いた個々のこれまでの生活スタイルにできるだけ準じた整容が行えるように努めている。毎月訪問理美容では本人の希望に応じたスタイルにしてもらうなどして、その人らしい支援ができるように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニュー作りは、職員で分担し、パターンに嵌らないようにたくさんの献立を立てている。誕生日の方に対しては、当日夕食時には本人の好きなメニューを提供している。入居者には調理、配膳、片付け時にそれぞれできる事を一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項目( ユニットB )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	必要時は家族や医療機関からの情報を得て、入居者一人一人の状態に合わせた食材、調理方法、カロリー、栄養バランスを考慮したメニューを立案するよう努めている。食事量が少ない時などは医師に相談するなどして対応し、必要時は家族から入居者本人の好物を差し入れして頂くなどの対応もしている。また、水分摂取量の少ない方にはゼリーなどで工夫し、摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔内が清潔に保てるように支援している。週に1度訪問歯科往診にて入居者一人一人が定期的にメンテナンスを行ってもらえるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を活用し、排泄傾向を分析することでトイレ誘導を行い、個々の排泄の自立に向けた支援を行っている。また、関係医療機関の看護師にも入居者個々の排泄状況を常に報告し、必要な対応が適切かつ迅速に行えるようにしている。オムツはずしについてや尿パッドの使用方法について職員会議で話し合っている。		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便表を作成し、入居者個々の排便状況を把握し関係医療機関と連携して、できるだけスムーズな排便コントロールができるように情報交換している。また、飲食物の工夫や身体を動かして頂くことで、よりスムーズな排便が行えるように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に曜日や時間帯を決めているが、入居者のその時々状態に合わせて柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目( ユニットB )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	入居者個々にあった睡眠環境を 作り、安心して気持ちよく休息 し眠れるように支援している。時 期にあわせ、その方にあった冷 暖房の調整をその都度行ってい る。また、不眠・昼夜逆転とな らないよう、睡眠導入剤などの 使用も医師と相談している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	入居者一人一人の服薬情報をフ ロア別にファイリングしており、 内服薬の情報がすぐわかるよう に整理している。入居者に変わ った様子がみられた時には都度 関係医療機関に連絡し、服薬 変更の指示があった場合には、 日誌や申し送りで全職員が把握 できるようにし、またファイリン グの薬情報の都度入れ替えてい る。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	日常の家事を一緒に行うほか、 一人一人の生活歴や本人の力を 活かした役割、楽しみごと、気 晴らしの支援をしている。本人 の意思・移行をどう取り入れて いくか検討し、実施している。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	本人の希望があれば、可能な限 り散歩や買い物などに出かけた いが、新型コロナウイルス感染 予防の観点から、入居者も職 員も満足のできる外出支援は 行えていないのが現状である。		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	入居者一人一人の希望や力に 応じてお金を所持したり、使え るように支援している。本人・ 家族による管理が難しい方は 社協による金銭管理支援を受 けて頂いている。入居の際、 金銭管理同意書にて説明を行 い、同意を得て金銭を取り扱 っている。		



自己評価	外部評価	項目( ユニットB )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>家族の状況、時間を考慮しながら、家族や親戚に対しての電話、手紙のやり取りができるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>毎朝共用スペースの掃除を行い入居者が快適に過ごせる空間作りを目指している。また、空調には気を配り居心地のよい室温で過ごせるように努めている。屋外では花壇やプランターに野菜や花を植え家庭菜園を楽しんで頂いている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングにはソファを設置するなどして入居者同士と一緒に過ごせる空間を作っている。居室は入居者個々の過ごしやすい環境にしておき、いつでも自室で独りくつろげるように工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者一人一人の居室入口に本人の写真を取り入れた創作物を貼るなどして、自室を間違わないように工夫している。また使い慣れた家具や道具、家族の写真、仏壇などを置き、入居者個々の生活スタイルに合った居室作りを行っている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>安全で自立できる生活を送れるよう各所に手すりや個々の居室の表札やトイレなどの標識を設置している。また、各居室のタンスなどにもどこに何が入っているのかわかるようにテープなどで表示を貼っている。</p>		

V アウトカム項目( ユニットB ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームあき・なごみの家

作成日 令和3年12月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	新型コロナウイルス拡大の影響により運営推進会議の開催や他施設での会議の参加及び地域行事への参加等、外部との関りがままならない状況にある。	感染が落ち着いている状況では可能な限り会議を実施するなどし、また、感染対策を徹底しながら、他施設や地域との関わりを再開させていく。	新型コロナの感染状況をしっかりと確認しながら、他施設や家族への連絡を行い、運営推進鍵の実施や地域行事への参加を増やしていく。	1年間。新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら実施中。
2	52	施設内研修の際、外部講師より施設内で使用する入居者用の椅子とテーブルが高齢者施設向きではないとの指摘がある。	入居者にとっては過ごしやすく、職員にとっては働きやすい環境作りを目指す。	研修内容を参考にし、椅子やテーブルをはじめとして、施設内の環境整備に努め、介護がしやすく、ゆとりのある空間作りを行っていく。	1年間。すでに実施。椅子やテーブルについては本部にも報告し、職員会議を開いて検討・購入を進めている。
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。